



# 札幌管区気象台 150年の歩み

気象観測のはじまりとウィリアム・ホイラーの貢献

## 気象観測のはじまり

札幌管区気象台の前身である

『札幌測候所』の発端となる気象観測は明治9年から始まりました。これは函館気候測量所（明治5年（1872）、函館地方気象台の前身）、東京気象台

（明治8年（1875）、気象庁の前身）に次いだ日本で3番目になります。

明治9年（1876）は、北海道開拓使が札幌農学校（現在の北海道大学）を開校した年でもあります。

測候所の創業当時、開拓使は「北海道の荒寒のやせ地で開拓するには、気象観測が必要である」と強調していました。札幌農学校のウィリアム・クラーク博士と共に来札した教え子のウィリアム・ホイラー博士は、農業と気象との関係について研究を始め、その一環として気象観測を始めました。

## ウィリアム・ホイラー博士と彼の功績

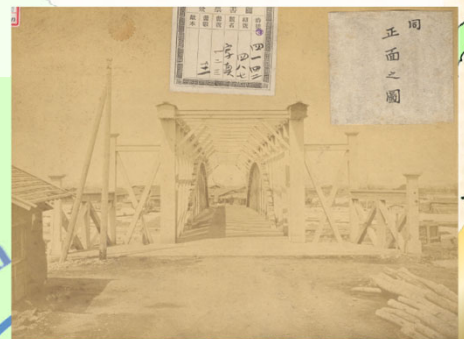
※下3枚の写真は北海道大学附属図書館より提供



博士の写真



演武場（現：札幌時計台）  
札幌農学校の講義室や講堂として設計しました



豊平橋  
幾度となく洪水で流失した橋を修復しました



最初の観測場所跡にある説明板  
（中央区南2条東1丁目）